

牧師所感： 神の国への憧憬

私の歳が九十を超えた時から、百歳に至るまでは、神に召される歳月であることを待望する日々を生きる。正直言って、体が自分も知らない内に衰えていて、日常の活動に活気を失っている自分に気付く。急に歩行が正常ではない。知り合いのお医者さん曰く、「あなたの年頃の人はほとんど亡くなっていますよ。残っている人は5%もないです。」とあっけなくおっしゃる。で私は日々我慢して生きるよりは、天（神）の国を憧憬する。幸いに病に苦しむ兄弟達の詩集『曠野の詩』を読み、病に打ち勝つ信仰に共鳴する。

さて病に苦しむ兄弟は、マルティン・ルターの詩「主よ憐れみ給え」を訳して勇気を得ている。ところが「神の国を憧憬」している私の詩としてここに転載する。

主よ 憐れみ給え（訳詩）

(Mitten wir im Leben sind mit dem Tod umfangen!)

マルティン・ルッター 作

荒谷三郎 訳

我らは生のうちにありて死と相抱けり。我ら救いを求むれども、我がたすけぬしは誰ぞや。そは汝なり。主よ、汝ただひとりのみ、主よ、我らは汝に背きまつりしもろもろの罪を悔ゆ。至聖にして力ある神、あわれみ深き救主よ、とこしえの神よ。我らをにがき死の苦しみに沈め給う勿れ。主よ、我等を憐れみ給え。

死のうちにありてゲヘナの責苦われにせまれり。この苦しみより解き放ちて、我らを活かすものは誰ぞや。そは汝なり。主よ、汝ただ一人のみ。汝のいくつしみは我らの罪と大いなるなげきとを、あわれみ給う。至聖にして力ある神、あわれみ深き救主よ、とこしえの神よ。我らを深きゲヘナの火におきて、生くる望みを失わせ給う勿れ。

キリエ エ レイソン
主よ 我らをあわれみ給え。

ゲヘナのなやみのうちにありて、罪は我らを譲れり。我らいずこにのがれゆき、
いざこにとどまるべきや。汝に、主、キリストよ、ただ汝にゆくのみ。汝は尊き血潮をそそぎて、豊かなる罪の贖を成就し給う。至聖にて力ある神、あわれみ深き主よ、
キリエ
とこしえの神よ。まことある信仰のなぐさめより、我らを去らしめ給う勿れ。主よ、
キリエ
我らをあわれみ給え。

神よ、申牧師（罪人）を哀れみ給え！ アーメン。